

|     |                                                                                                                                                                                                       |                                                     |                                                   |                                                      |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 問1  | 1960年代以降、先進工業国と発展途上国の経済格差である「南北問題」が注目されましたが、近年では、産油国や新興工業経済地域（NIES）などの急成長した途上国と、依然として貧困から抜け出せない後発開発途上国との間で、経済的な格差が拡大しています。このような発展途上国相互の間で生じている経済格差を何と呼びますか。（2017年 茨城県公立入試 類似）                         |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. デジタル・デバイド                                                                                                                                                                                          | 2. グローバル化                                           | 3. 南南問題                                           | 4. 南北問題                                              |
| 問2  | 太陽光、風力、地熱、バイオマスといった、自然界に存在し、一度利用しても比較的短期間に再生が可能で、繰り返し利用することができるエネルギーの総称を何というか。（2019年 千葉県公立入試 類似）                                                                                                      |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 太陽光や地熱などの再生可能エネルギー                                                                                                                                                                                 | 2. ウランなどを燃料とする原子力エネルギー                              | 3. 石油や石炭などの化石燃料                                   | 4. 天然ガスを主な成分とする都市エネルギー                               |
| 問3  | 企業の責任や消費者の生活習慣が問われる中、資源を循環させる具体的な活動が普及しています。空になった洗剤の容器を捨てずに中身を詰め替えて再度利用したり、不用品をフリーマーケットやリサイクルショップで他人に譲ったりする活動に共通する、3Rの考え方はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）                                                    |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. バイオマス                                                                                                                                                                                              | 2. リデュース                                            | 3. リサイクル                                          | 4. リユース                                              |
| 問4  | 再生可能エネルギーの導入を推進することは、環境保護だけでなく日本のエネルギー安全保障の観点からも重要視されています。太陽光や風力を利用した発電に関する資料において、「利点」として挙げられる特徴として適切なものはどれですか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）                                                                     |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 自然の力を利用するため資源が枯渇する心配がなく、エネルギー源を国内で確保できる。                                                                                                                                                           | 2. 大規模なダムや燃焼施設を必要としないため、都市部の狭い土地でも効率よく発電できる。        | 3. エネルギーの密度が非常に高いため、小さな設備で都市全体の電力をまかなうことができる。     | 4. 海外からの資源輸入価格の変動に合わせて、発電量を柔軟に調整することが容易である。          |
| 問5  | 貧困や環境破壊、紛争といった課題に対し、国家単位の防衛だけでなく一人一人の生命や生活を守り、安心できる社会を目指す考え方を何といいますか。（2026年 岩手県公立入試 類似）                                                                                                               |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 地方自治の尊重                                                                                                                                                                                            | 2. 企業の社会的責任                                         | 3. 人間の安全保障                                        | 4. 主権の確立                                             |
| 問6  | 非政府組織（NGO）などが開発途上国で実施している、貧しい人々が自立して事業を始められるよう、担保なしで少額の資金を貸し出し、収入を得る機会を提供する金融支援の仕組みを何といいますか。（2023年 福島県公立入試 類似）                                                                                        |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. ワークシェアリング                                                                                                                                                                                          | 2. フェアトレード                                          | 3. マイクロクレジット                                      | 4. 政府開発援助（ODA）                                       |
| 問7  | 地球環境問題への対策において、「将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現代の世代の要求も満たす」という、環境保護と経済発展を両立させようとする考え方を何といいますか。（2017年 佐賀県公立入試 類似）                                                                                              |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 高度経済成長                                                                                                                                                                                             | 2. グローバル化社会                                         | 3. 循環型社会                                          | 4. 持続可能な開発（社会）                                       |
| 問8  | 政治分野や企業の管理職における男女間の差について、性別による差別や偏見をなくし、相互理解を深めることが重要であると指摘されています。このような背景のもと、持続可能な開発目標（SDGs）の目標5として掲げられているものはどれですか。（2023年 鳥取県公立入試 類似）                                                                 |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. ジェンダー平等を実現しよう                                                                                                                                                                                      | 2. 働きがいも経済成長も                                       | 3. 平和と公正をすべての人に                                   | 4. 人や国の不平等をなくそう                                      |
| 問9  | 1950年代半ばから1970年代にかけて、日本のエネルギー消費の構造は劇的に変化しました。国内の木材消費の内訳を見ると、1955年頃には大きな割合を占めていた薪や炭などの「燃料」としての利用が、1970年以降には大幅に低くなっています。これと同じ時期に、九州の筑豊地域などで盛んだった石炭産業が衰退し、エネルギーの主役が石油へと交代した動きを何と呼びますか。（2024年 長野県公立入試 類似） |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 技術革新                                                                                                                                                                                               | 2. 産業革命                                             | 3. エネルギー革命                                        | 4. 情報革命                                              |
| 問10 | 発展途上国で生産されるコーヒーやカカオなどの農産物において、生産者が労働に見合った十分な利益を得られず、貧困が深刻化する課題があります。こうした生産者の生活を守り、自立を促すために、現地の製品を適正な価格で継続的に取引する仕組みを何といいますか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）                                                         |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 保護貿易                                                                                                                                                                                               | 2. フェアトレード                                          | 3. 経済連携協定（EPA）                                    | 4. 自由貿易                                              |
| 問11 | 琵琶湖などの湖辺に広がるヨシの群落は、地域の環境を守るために条例などで保護されています。このような植物群落が、水辺の環境保全において果たしている役割として最も適切なものはどれですか。（2026年 兵庫県公立入試 類似）                                                                                         |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 水中の窒素やリンを吸収して水を浄化し、魚などの生物に生息場所を提供すること                                                                                                                                                              | 2. 湖の水を急速に蒸発させることで湿地を乾燥させ、農地への転用を助けること              | 3. 二酸化炭素を排出することで周辺の気温を上げ、熱帯性の植物を育てること             | 4. 光合成を抑制することで水温の上昇を防ぎ、外来種の繁殖を完全に止めること               |
| 問12 | 旅客の輸送量あたりの二酸化炭素排出量を比較した際、自家用乗用車が1人1kmあたり約130gであるのに対し、鉄道は約20g、バスは約60gと、公共交通機関の排出量が少ないことがわかります。このような実態を踏まえ、環境負荷を軽減するために推奨される行動として最も適切なものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）                                       |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 自家用乗用車の利用を控え、鉄道やバスなどの公共交通機関の利用を促進し、二酸化炭素の排出量を抑制する                                                                                                                                                  | 2. バスや鉄道は自家用乗用車よりも二酸化炭素排出量が多いため、都市部での公共交通機関の利用を制限する | 3. 交通手段の選択は環境問題に影響を及ぼさないため、個人の利便性のみを優先して移動手段を決定する | 4. 鉄道は1人あたりの排出量が非常に少ないため、鉄道網を廃止してすべて自家用乗用車での移動に切り替える |
| 問13 | 脱炭素社会の実現に向けて導入拡大が求められている、太陽光や風力、水力など、自然界から得られ、発電時に二酸化炭素を排出しないエネルギー源を総称して何といいますか。（2022年 長野県公立入試 類似）                                                                                                    |                                                     |                                                   |                                                      |
|     | 1. 火力エネルギー                                                                                                                                                                                            | 2. 化石燃料                                             | 3. 再生可能エネルギー                                      | 4. 原子力エネルギー                                          |

## 答え合わせ・解説

|     |                                                           |                                                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>南南問題                                              | 発展途上国はかつて一括りに「南」の国々とされていましたが、石油などの資源を持つ国や工業化に成功した国が経済成長を遂げた一方で、成長が遅れた国々との間に新たな格差が生まれました。これを「北」と「南」の対比になぞらえ、途上国同士の格差として表現した言葉です。                                                           |
| 問2  | 答え 1<br>太陽光や地熱などの再生可能エネルギー                                | 地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出が極めて少なく、資源の枯渇の心配がないエネルギーを指す。持続可能な社会の実現（SDGs）において、石油や石炭といった有限な資源に代わる主要なエネルギー源として、世界中で導入が進められている。                                                                        |
| 問3  | 答え 4<br>リユース                                              | 一度使用された製品を、廃棄せずにそのままの形で繰り返し使うことが「リユース」の特徴です。これに対し、製品を一度砕いたり溶かしたりして、別の製品の原材料として再利用することは「リサイクル」と呼ばれます。詰め替え容器の利用や中古品の活用は、エネルギーをかけて再生する前段階の「そのまま使う」取り組みであるため、リユースに該当します。                      |
| 問4  | 答え 1<br>自然の力を利用するため資源が枯渇する心配がなく、エネルギー源を国内で確保できる。          | 太陽光や風力は自然界に絶えず存在するエネルギーを利用するため、一度設備を整えれば資源がなくなる心配がない「枯渇しないエネルギー」です。エネルギー資源の多くを海外からの輸入に頼っている日本にとって、国内の自然環境を利用してエネルギーを自給できることは、エネルギーの安定供給（エネルギー安全保障）の面で大きなメリットとなります。                        |
| 問5  | 答え 3<br>人間の安全保障                                           | 貧困や環境問題、感染症などの地球的規模の脅威から、一人一人の人間の生命や生活を守り、個人の尊厳を尊ぶ考え方を「人間の安全保障」といいます。国連などを中心に国際協力の新たな指針として推進されています。                                                                                       |
| 問6  | 答え 3<br>マイクロクレジット                                         | 貧しい人々が商売や農業を始めるための元手となる少額の資金を、無担保で貸し出す仕組みをマイクロクレジットと呼びます。単なる一時的な食料や物資の寄付とは異なり、借り手が自らの事業で収入を得て、借りたお金を返済していくプロセスを通じて、持続的な経済的自立を促すことが大きな目的です。バングラデシュのグラミン銀行による取り組みがその代表例として知られています。          |
| 問7  | 答え 4<br>持続可能な開発（社会）                                       | 1980年代に国際的な委員会で提唱された概念で、現在の豊かさを追求するだけでなく、未来の人々が利用する資源や環境を使い果たさないように配慮することを指します。環境と資源を守りながら、社会全体を発展させていくという視点が重要視されています。選択肢にある「循環型社会」は廃棄物の削減やリサイクルに特化した仕組みを指すため、より広い概念である「持続可能」という言葉が適切です。 |
| 問8  | 答え 1<br>ジェンダー平等を実現しよう                                     | SDGsの目標5は、性別によるあらゆる差別を撤廃し、女性や女兒の能力を強化（エンパワメント）することを目指しています。特に政治分野や意思決定を行う管理職において男女間の差がある現状を解消し、誰もが平等に社会参画できる環境を整えることが求められています。                                                            |
| 問9  | 答え 3<br>エネルギー革命                                           | 1960年代を中心に、エネルギー資源の主力が石炭から石油へと大きく転換したことをエネルギー革命と呼びます。この時期、高度経済成長に伴い家庭用の燃料も木材（薪・炭）からガスや灯油へと変化したため、木材の消費内訳において燃料材の占める割合が激減しました。                                                             |
| 問10 | 答え 2<br>フェアトレード                                           | 発展途上国の生産者は、国際価格の変動や不利な取引条件により、生活に十分な収益を得られないケースが少なくありません。これに対し、消費者が適正な価格で継続的に購入することで、生産者の労働環境の改善や教育、環境保護を支援しようとする取り組みをフェアトレード（公正な貿易）と呼びます。                                                |
| 問11 | 答え 1<br>水中の窒素やリンを吸収して水を浄化し、魚などの生物に生息場所を提供すること             | ヨシなどの湿生植物は、成長の過程で水中のプランクトンの増殖を招く窒素やリンを吸収するため、水質の浄化に大きく貢献しています。また、その複雑な根元や茎の間は、魚の産卵場所や隠れ家、鳥類の営巣地となるなど、多様な生物が共生する生態系を支える重要な基盤となっています。                                                       |
| 問12 | 答え 1<br>自家用乗用車の利用を控え、鉄道やバスなどの公共交通機関の利用を促進し、二酸化炭素の排出量を抑制する | 輸送手段によって、1人を運ぶ際に排出される二酸化炭素の量には大きな差があります。統計によると、一度に多くの人を運ぶことができる鉄道やバスは、自家用乗用車と比較して1人あたりの二酸化炭素排出量が大幅に抑えられています。そのため、移動手段を自家用車から公共交通機関へ転換することは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出抑制において非常に有効な対策となります。       |
| 問13 | 答え 3<br>再生可能エネルギー                                         | 地球温暖化の主な原因とされる温室効果ガスの排出を抑えるため、太陽光や風、水、地熱といった自然界に常に存在する資源を活用する動きが世界的に加速しています。これらは一度利用しても比較的短期間で再生されるため、石油や石炭などの有限な地下資源とは異なる持続可能なエネルギー源として位置づけられています。                                       |